つどう　まなぶ　むすぶ

福井市の公民館

鶉
公民館

社南
公民館

清水南
公民館

第 13 号

福井市公民館一覧

ブロック	No.	館名	所　在　地	電話番号	掲載号
あたご	1	木　田	木田１丁目 1401	36-0042	6 号
	2	豊	みのり３丁目 106-8	34-0344	12 号
	3	足　羽	足羽２丁目 12-31	35-0041	7 号
	4	湊	学園１丁目 4-8	22-0032	
不死鳥	5	春　山	文京３丁目 11-12	22-0057	2 号
	6	宝　永	松本４丁目 8-4	22-0036	
	7	順　化	大手３丁目 11-1	20-5458	11 号
	8	松　本	文京１丁目 29-1	22-0085	8 号
	9	日之出	四ツ井１丁目 7-24	54-0040	9 号
	10	旭	手寄２丁目 1-1	20-5364	
	11	日　新	文京５丁目 1-8	21-7225	3 号
みなみ	12	清　明	下荒井町 8-414	38-0043	10 号
	13	東安居	飯塚町 6-18	35-9566	4 号
	14	社　南	種池２丁目 206	35-9559	13 号
	15	社　北	若杉４丁目 308	35-9111	創刊号
	16	社　西	久喜津町 65-23	34-7910	2 号
	17	麻生津	浅水三ヶ町 1-93	38-4383	6 号
あずま	18	和　田	御幸４丁目 9-20	22-0038	8 号
	19	円　山	北今泉町 7-12	54-0048	5 号
	20	啓　蒙	開発１丁目 2105	54-0046	10 号
	21	岡　保	河水町 10-13	54-2519	7 号
	22	東藤島	藤島町 48-1-1	54-0039	
九頭龍	23	西藤島	三郎丸１丁目 1410	22-0040	9 号
	24	中藤島	高木町 64-11-4	54-0045	12 号
	25	河　合	川合鷲塚町 9-18	55-0001	
	26	森　田	下森田藤巻町 2	56-0195	創刊号
	27	明　新	灯明寺町 35-1-1	22-7880	4 号
光	28	安　居	本堂町 7-4	37-1234	11 号
	29	一　光	下一光町 6-5	37-0168	5 号
	30	殿　下	風尾町 1-13	97-2377	
	31	越　廼	茱崎町 1-68	89-2182	7 号
	32	清水西	大森町 20-43-1	98-4560	12 号
	33	清水東	三留町 14-11-1	98-4510	8 号
	34	清水南	風巻町 21-17	98-4590	13 号
	35	清水北	ｸﾞﾘｰﾝﾊｲﾂ５丁目 131	98-5477	
川西	36	大安寺	四十谷町 5-20-1	59-1001	3 号
	37	国　見	鮎川町 195-7	88-2004	4 号
	38	鵜	砂子坂町 5-58	83-0433	13 号
	39	棗	石橋町 4-14	85-1495	10 号
	40	鷹　巣	蓑町 14-7	86-1001	
	41	本　郷	荒谷町 19-55	83-0582	6 号
	42	宮ノ下	島山梨子町 22－9	59-1150	11 号
足羽	43	酒　生	荒木新保町 37-9-5	41-2503	9 号
	44	一　乗	西新町 1-31	43-2001	12 号
	45	上文殊	北山町 34-1	41-0516	3 号
	46	文　殊	太田町 4-11-2	38-0550	2 号
	47	六　条	天王町 43-4	41-1001	
	48	東　郷	東郷二ヶ町 6-13-1	41-0306	5 号
	49	美　山	美山町 2-12	90-7111	
	50	中　央	手寄１丁目 4-1	20-5459	創刊号

第１３号　掲載館

公民館名	住　所	電話番号	メールアドレス
社南公民館	〒918－8031 福井市種池２丁目２０６	（０７７６） ３５－９５５９	ymina-k@mx1.fctv.ne.jp
清水南公民館	〒910－3622 福井市風巻町２１－１７	（０７７６） ９８－４５９０	smina-k@mx4.fctv.ne.jp
鵜公民館	〒910－3143 福井市砂子坂町５－５８	（０７７６） ８３－０４３３	uzura-k@mx1.fctv.ne.jp

《福井市の公民館に思う》

福井のあたり前は、全国のトップレベル

前福井市教育長　　内田　高義

「福井市の公民館は、原則、小学校区ごとに設置され、地域に密着した職員体制(地区選考内申)のもと、社会教育、生涯学習及び地域活動の拠点としての役割を果たしている。また、各公民館には各種団体、住民の代表等で構成される公民館運営審議会を設置し、民意を十分に反映した中で、地域住民との協働のもとに運営されている。」

これは「福井市の公民館 ～つどう まなぶ　むすぶ～」創刊号に記載されている内容である。平成25年４月に川端喜彦氏が中央公民館館長に就任され、中央公民館の役割や特徴について話し合ったことが思い出される。彼は、「本市の各公民館の取組、活動は全国のトップレベルであり、公民館関係者はもちろんのこと、多くの市民に各公民館の特色ある活動事例を紹介し、このことを広報することは、中央公民館の重要な役割でもある」と力説をしていた。現在の全国トップレベルの活動内容と、公民館のあゆみも併せて作成すれば、本市公民館の現状と歴史を手軽に知ることができ、資料集としての価値も大いに期待できるとの思いで賛同した。

それから１年後、創刊号を教育長室に届けに来てくれたときの達成感と満足感に満ちた彼の笑顔がつい先日のように思い出される。一方で、全ての地区館を紹介するのに、あと何年かかるのか、冊子は年に何回発行できるのか等の課題も抱えていた。そして「何か気がついたことがあれば」と感想を求められ、「公民館の歌を載せたらどうだろうか、学校の校歌と同じで、公民館への願いや希望がきっと込められているはずだから冊子の格調も高くなると思う」と答えると、その４か月後の平成27年６月発行の第２号に、歌詞だけでなく、作詞・作曲も含めた楽譜、公民館の歌（自由の朝）が掲載されているではないか。彼のすばやい対応に感謝したものである。「更に欲を言えば、歌ができたときの背景か説明もあると最高だ」と呟いたら、平成28年２月発行の第４号に、楽譜に併せて歌の由来が掲載されており、またまたその対応に感激をしたものである。その号の巻頭言は、彼の経験から得た教育観、特に公民館関係者へのエールが込められた内容でまとめられており、今でも熱い思いと気迫が、その一文一文から伝わってくる。しかし、第４号を手にすることなく、彼はこの世から旅立ってしまった。同級生であり盟友だった、川端喜彦氏のご冥福を改めてお祈りし、彼の遺志が中央公民館の平馬館長をはじめ編集委員の方々に引き継がれ、今回、第13号が発行されたことに心より敬意を表し感謝を申し上げる。

「福井市の公民館」も、あと10公民館を紹介して一巡する。まさに、本市公民館の過去・現在を端的に表しており、未来に向けての宝である。各公民館では、この冊子が創刊号から保存されており、何時でも誰もが手に取って見ることができる。本市全体の公民館の歴史や地区公民館の特徴的な活動を知る資料としての活用はもちろんのこと、現在、各公民館で取り組まれている諸活動のどれもが、実は全国のトップレベルの内容であることも知っていただきたい。(第11号の受賞歴参照)地域活動の拠点となる公民館での諸活動が、これからも地域住民との協働のもと、次の世代へと引き継がれていくことを切に願っている。

笑顔あふれる緑の里

― 未来へのとびら ―

社南公民館

１　社南地区の概要

社南地区は福井市中心部から南西５㎞にあり、地区内には、日野川・狐川・江端川の清流が流れ、雄大な田園風景が広がっている。後方には足羽山・兎越山・八幡山の足羽三山が緑豊かにそびえ立ち、四季折々の美しい姿を見せている。

県の運動公園が近くにあり、昭和43年の福井国体を契機に発展してきた。また、西部循環道路など大きな道路も整備され、沿線を中心に大型量販店や飲食店が建ち並んでいる。住宅建設や人口増加も進み、新しい自治会や規模の大きな自治会が増えている。高齢化率は22.5%と市内で６番目に低く、活気があり生活に便利なまちである。平成30年の２巡目の国体では、住民が一体となり、ボランティアによるおもてなしや応援で盛り上がりをみせた。

しかし、高齢化率は年々上昇傾向にあり、持続可能な地域社会づくりに向け、「次世代の担い手育成」や「地域全体での子育て」「新しい住民自治の構築」など、複雑化する地域課題に対応することが必要になっている。平成31年１月１日現在、人口13,553人、世帯数4,996戸である。

２　心を掴むユニークな教育事業！

誰でも自由に訪れることができ、個人や町内の困りごと・不安を解決し、様々な活動の中心になる場所が公民館である。社南公民館では、いろいろな人の想いに応え、人と情報が集まる「まちの茶の間」「屋根のある公園」を目指し、魅力ある講座を企画している。

平成30年度は、「YMPAカフェ（家庭教育）」「ナウナウ寺子屋（少年健全育成）」「ぶらり社南（郷土学習）」「えもり学級（健康長寿）」「アイルランドフェスティバル（人材育成）」などの教育事業や、「プロが教えるロコモ対策」「食学部」「付箋アート」などの市民憲章事業を行っている。

それぞれ、ユニークなネーミングや関心をもって参加したくなるような講座内容を目指した。

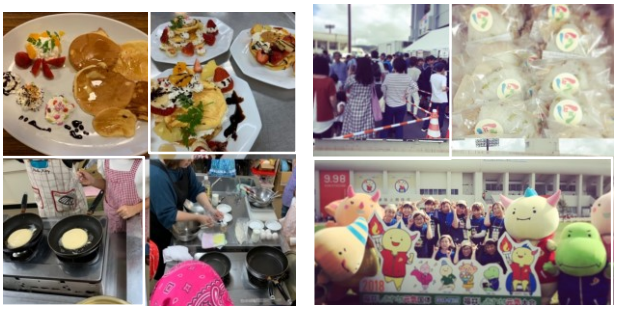
「食」は、「知・徳・体」の基礎となるものだが、学ぶ機会が少ないと感じ、特にこの数年は「食」の分野で、多くの世代が学び合えるような講座を工夫した。

(1) 食について新しい角度から学び、味わう学部「食学部」

食学部は、様々な風土で培われた食文化を再発見していく講座で、食のプロからたくさんの知識や情報を教えていただき、日常生活に活かすことをねらいとしている。平成26年度から実施していて、参加者は、和食からアジア、ヨーロッパ料理など幅広いジャンルの料理を楽しみつつ、毎回、熱心にメモをとり、積極的に質問をしながら学んでいる。

(2) 子どもの自立を支える「ナウナウ寺子屋」のキッズキッチン

ナウナウ寺子屋は、子どもたちが地域の一員としての自覚を持つことをねらいとしている。その中のキッズキッチンは、小学校高学年を対象に、「食べることは生きること」をテーマに、「食」に関心をもち、自分が食べるものを自分で選べるようになることを目指している。平成29年度は、麺メニュー、カフェランチ、ハンバーガー、フレンチトーストなどで年４回実施し地区の方などから食材や調理法について学んだ。



⑶「食」で地区を盛り上げる「おもてなし隊」

平成30年の福井国体開催に向け、スポーツをする子どもを「食」を通して応援しつつ、おもてなしで地元を盛り上げようと、平成27年度に有志による「社南おもてなし隊」を結成した。

スポーツ栄養冊子の発刊、講演会の開催などを通して学び合った。そして地域の特産品を使ったおもてなし料理を考案し、大会当日に国体会場でふるまった。

この活動から、地区の豊富な人材に気づかされた。今後、様々な分野での活躍が期待できると考えられる。

⑷地区の面白さを体験！「ぶらり社南」

公民館は、地区の課題を探り出し解決するための事業を展開する場でもあるが、そのためには地区を知ることが必要と考え、地区巡りを企画した。

まずは、公民館職員が各町内を訪ねて、住民とふれあった。自分のまちが好きで、そこで生まれ育った方、働いている方、家庭をもって住んでいる方、そんな人にガイドをしていただき、一緒に歩くことで今まで気がつかなかった発見があった。ガイドを担った人も、改めて自分の住むまちを意識し、愛着や誇りを持つことにつながった。

また、毎年、至民中学校の生徒に職場体験の一つとして、この「ぶらり社南」を担当してもらっている。生徒は、カメラマン、インタビュアー、記録係などの役割に分かれ、ガイドさんにぴったりくっついて熱心に話を聞きながら歩いている。その後、公民館で各町内の昔話や逸話、写真やイラスト、自分たちの感想などを書き込んだマップを作成する。完成したマップは、職員が作成したマップとともに公民館のホームページに掲載している。

その他、地区を歩く中で見事な一本桜に巡り合ったことをきっかけに、地区の方から「お薦めの桜」「お気に入りの桜道」を募集した。それを広く紹介したいとの思いが、「社南桜めぐり」マップの作成につながっていった。社南公民館では、今後も、様々な切り口で地区の面白さをどんどん発見し、地区内外に発信していきたいと考えている。

3　次世代の担い手育成～社南青年会の設立～

青年活動を活性化したいと、平成27年度に地区の青年懇談会を開催した。その後、参加した有志の青年が、公民館まつりや地区成人式でイベントを企画し実施してくれた。平成28年度には規約や役員を整え、「社南青年会」として発足した。メンバーは「世代と地区をつなげ、社南をもっと盛り上げたい」と、楽しみながら次のようなユニークな活動を企画し実施している。

⑴災害キャンプ～学校に泊まろう～

災害時に避難所となる小学校で、校庭にテントを張り、体育館に段ボールの仕切りをして、宿泊体験をするものである。もしものときのシミュレーションや顔見知りを増やすことで災害時の不安を減らそうと、青年会が中心となり、各種団体、自衛隊、警察、消防、企業の協力を得て実施した。今年度は、非常食試食会や応急処置、起震車、はしご車、給水装置などの体験もあり、参加者は親子で楽しみながら防災意識を高めた。

⑵社南バル～みんなではしご酒～

社南の魅力的な飲食店を発掘することで、地元に愛着を深めてもらおうと企画した。地区内の15の参加店から3店を選んで巡るもので、参加チケットを購入し、お店で、名物料理、アレンジ料理1品、飲み物を選んで楽しむことができる。

参加者は3店をはしごする中で、地区の新たな店舗の発見や住民同士の交流を図ることができた。

4　終わりに

様々な教育事業を通して、地域の活動拠点として、地区住民の集いの場や憩いの場を提供していき、社南地区の地域愛や社会参加の意識を高められるようこれからも事業の充実を図っていきたい。

社南公民館では、幅広い世代の方が気軽に公民館を活用し、生き甲斐や仲間づくりができるようにと、地域に密着した魅力ある教育事業を開催しています。これからも「まちの茶屋」「屋根のある公園」として親しまれる中、地区の要としてますます発展されることを心から祈念します。

公民館を訪ねて

花と緑にあふれ　歴史が息づくまち　清水南

― 地域づくりの拠点として ―

清水南公民館

１　清水南地区の概要

昭和 30 年、丹生郡志津村、三方村、天津村が合併して清水町となったが(清水南地区は天津村に相当)、その後清水町は平成 18 年に福井市に合併し、今日に至っている。本地区は、天王川と志津川、日野川の恵みを受けた肥沃な田園地帯にあり、コシヒカリをはじめ良質の米、麦、大豆を産し、幻の地酒「天津神力(あまつしんりき)」や手作りの田舎味噌「新ちゃんみそ」などの名産を育んでいる。

本地区は 11 の集落からなっており、地区の中央部を主要地方道福井・朝日・武生線(広域農道)が縦断している。西部には健康づくりの拠点施設である「ふくい健康の森」が立地されており、北部には商業施設と市保健センターや総合運動公園「きららパーク」、こども園、中学校、図書館、公民館などの教育関連施設がある。また、南部の日野川沿いに「グリーンピア清水工業団地」が造成されており、プラスチック加工、電気、鉄鋼関連の工場が建ち並んでいる。

このように本地区は自然が豊かで様々な施設が立地しており、快適で生活しやすい環境にある。また、福井市街地や鯖江市、越前市、丹生郡への交通網が整備されており、地区外へ働きに出ている住民が多い。

かつて本地域の基幹産業であった稲作中心の農業は、現在個人で従事する人が少なくなってきており、生産組合等に委託したり、法人化して共同で行ったりしている農家が増えている。また、本地域には、住宅団地が造成されなかったこともあって少子高齢化が一層進んでおり、校区の清水南小学校の児童数は現在 90 人を下回り、年々減少の一途をたどっている。

平成 31 年 1 月 1 日現在、人口は 2,253 人、世帯数は 860 戸である。

２　地域づくりの拠点として

清水南公民館は、様々な教育事業の開催や自主グループ活動の支援など生涯学習の拠点としての活動に加え、防災訓練・区民運動会・敬老会・ふるさとウォーク等の地区行事(事業)に対し、各種団体と協働して地域づくりの拠点としての活動にも積極的に取り組んでいる。

以下、公民館が関わる特色ある地域づくりの活動をいくつか紹介する。

(1)「心豊かな人情のまち」

～ふるさと発見、魅力づくりプラン～

語り部と歩くふるさとウォーク

ふるさと清水南地区のよさを知り、誇りと愛着を深めてもらうことを目的に、平成 21 年度より毎年 11 月に実施している。日野川と山に挟まれた清水南地区内には、多くの古墳や城跡、神社や寺院、寺院跡などが点在し、ゆっくり歩くことでこうした歴史と魅力が再発見できる。

清水南地区まちづくり協議会の「活き活きまちづくり委員会」が中心となって準備をする手作りイベントで、子どもからお年寄りまで毎年約 150 人が参加する。「知る」だけでなく、歩くことが健康づくりにつながり、世代を超えたふれあいで交流も図ることができる。

イベントは清水南 11 地区を 5 つに分け、毎年順番に 1 つずつ歩いており、現在 2 巡目に入っている。住民の間にも浸透し、訪問場所や沿道の清掃、休憩時やウォーク後にふるまわれる地区の特産を生かした菓子や料理作り等、地元の自治会、婦人会の協力が活発になってきている。

また、近年は小学生、中学生が「地域と進める体験推進事業」の一環として、当日のウォーク参加だけでなく、ふるまいのお菓子作りや受付のお手伝い等にも関わってくれるなど、地区全体が結束した活動になって

きている。

公民館は、ウォーク自体の運営にも深く関わっているが、それ以外にも教育事業で「清水南地区の歴史講座」を一般対象と小学生対象別々に企画するなどして、地域の歴史や魅力の再発見に貢献している。

⑵「花と緑にあふれた潤いのあるまち」
～花と緑がいっぱいエコプラン～

自治会花壇活動

清水南地区では、「地域の魅力発信事業」の一環として 11 自治会すべてに地区花壇が設置されており、地域をあげて「花と緑のまちづくり」に取り組んでいる。

昨年も全自治会が福井市花壇コンクールに応募し、2 つの自治会が入賞した。多くは寿クラブ(老人会)の力を借りて運営されているが、近年は自治会や小・中学生が運営に参加している地区もあり、活動の幅が広がっている。

公民館も教育事業で「園芸講座」を開講し、花壇活動に参加していただくボランティアを育成したり、各地区の代表者に花の苗を配布する際に「花壇講習会」を企画したりすることで、各地区の環境美化活動を支えている。

レインボー花壇

県道島寺交差点にある 4 つの大型花壇は、「清水南レインボー花壇」の名称で清水南の顔として多くの人に親しまれている。

管理・運営はボランティアグループ「虹の会」(会員 20 名)のメンバーで行い、春花壇と夏花壇の花の種類選定、デザイン、整地、定植、水やり、草取り、撤去等、大変地道な活動を経て、毎年きれいな花を咲かせ、地区住民やドライバーの目を楽しませている。

公民館は教育事業で「お花ボランティア教室」講座を開講することで、「花と緑にあふれた潤いのあるまちづくり」を目指して花壇活動に参加いただくボランティアの育成を図っている。

⑶「安心して暮らせる住みよいまち」
～活き活き健康・安心安全プラン～

健康長寿教室

地域の高齢者の方が元気に暮らせる知識と健康法を学び、軽スポーツ(健康体操)を楽しみながら体力維持に努めてもらうことを目的として、「健康長寿教室」(年 5～6 回)を公民館主催で開催している。

健康についての話と体操が主であるが、他地区の寿クラブとスポーツ体験交流会を行うこともある。今年はフロアーカーリング大会を行い、大会後は郷土料理の弁当を食べて交流した。

地区の敬老会の講話や合同デイホームでの健康体操教室も健康長寿教室の一環として公民館が担当している。

3 終わりに

清水町時代は清水南地区全体のこととなると行政任せのことが多かった。福井市に合併し、その点は改善されつつあるが、まだまだ十分とはいえず、誰もが気軽に参加できる住民自治の確立を目指し、自主的な地域づくりをしていくことが求められている。

そこで、清水南公民館では、各関係機関や団体と協働・連携を深めながら、教育事業の講座にまちづくり事業と関連のあるもの(園芸教室や地域の歴史講座等)を取り入れるなど、「地域づくり」と「生涯学習」を一体化させて取り組むよう努力していきたい。

清水南地区を通っていると、あちらこちらに、美しく手入れされた見事な花壇が目に入ってきます。これは、11 の自治会の結束が表れたまちづくりの象徴だと分かりました。これからも、清水南公民館が「地域づくりの拠点として」の役割を担いながら充実した活動を展開し、地区の伝統が受け継がれていくことを願っています。

公民館を訪ねて

偉人がつなぐ地域の輪「鶉」

鶉公民館

1 鶉地区の概要

鶉地区は、福井市北西部の九頭竜川左岸後背湿地に位置し、稲作中心の農業が盛んである。近年は小規模農業から脱却し、圃場整備事業を強力に推進して大規模営農方式による米作りが主流になっている。また、ハウス栽培も盛んで、多種多様な野菜や果物を市場に出荷し新たな農業を目指して取り組んでいる。

九頭竜川は、古くから「崩れ川」「暴れ川」などと呼ばれ、氾濫や水害を繰り返してきたが、地元波寄町出身の偉大な政治家・杉田定一（鶉山[じゅんざん]）の尽力により長い年月をかけて「明治の大改修」が行われた。これにより、地域の農業が振興し、人々の安定した生活がもたらされることとなった。

杉田翁の功績は今日の鶉地区の礎となっており、鶉山に学び鶉山を愛する精神は今も生き続けている。

すべての地区民が鶉山の遺徳を偲び、地区の夏祭り事業をはじめ公民館の様々な事業の中で、崇高な碩学の精神を称えている。昭和60年には、杉田鶉山遺徳顕彰会によって公民館前庭に銅像が建てられている。平成31年1月1日現在、人口は3,046人、世帯数は1,010戸となっている。

2 繋がりと交流を大切にした地区事業

(1) 北海道上砂川町との交流

明治30年、旧鶉村出身の山内甚之助は開拓の地を求めて北海道に入った。明治31年に北海道長官となった杉田定一の働きかけにより正式に現在の上砂川町が開拓地として認められることとなり、山内氏はふるさと鶉を偲び、この地を鶉村と名付け開拓の祖となった。今でも「鶉」の名がつく場所があちらこちらに残っている。このことがきっかけとなり、「全国まちづくり交流大会」が福井で開催された平成16年から、鶉地区と上砂川町との正式な交流が始まった。

平成24年からは小学生の相互交流、平成27年からは上砂川中学校が修学旅行で福井を訪れるなど、行政や地区同士の交流から、次世代を継ぐ子どもたち同士の交流へと発展してきた。

今年度も、5月に上砂川中学校の生徒が修学旅行で鶉地区を訪れ、公民館前での歓迎式のあと地元の川西中学校生徒と交流会を行い、その後地区内を巡った。

また、夏休みには、上砂川中央小学校の児童6名が鶉地区を訪れ、鶉小学校児童との交流会や地区巡り、里づくり委員の引率による県内観光などを行った。

この事業は、子どもたちにとって、郷土の歴史を学び、郷土のよさを再認識するよい機会となっている。

(2) 鶉の里夏祭り

平成9年から公民館主催で始まった夏祭りで、毎年8月に開催されている。平成20年からは、祭りのタイトルをこれまでの「鶉山まつり」から「鶉の里夏祭り」と改め、実行委員会によって継続されている。

全地区民参加で作る越前和紙を使った七夕飾りが会場を盛り上げ、子どもからお年寄りまでこぞって参加する地区の一大行事となっている。

今年度は、猛暑の中、8月11日(土)に開催され、園児による和太鼓の演奏や、鶉山音頭、鶉山ヨサコイバ

ージョンなどが賑やかに繰り広げられた。また、会場には各種団体の模擬店テントが多数連なり、地区民の交流の場となっていた。

⑶ おかえりイルミネーション

布施田町にある川西橋の前に、鶉の里づくり委員会と青年会(鶉和[やわぎ]会)が中心となって設置している。今年度で12年目となり、地区ではすっかり冬の名物となっている。

仕事から帰ってくる人や、年末年始に帰省する人を温かく出迎えようと、約4,000個のLED電球を使って、「おかえりうずら」と書かれた看板と、高さ約6mのクリスマスツリーを設置している。今年は11月18日に、鶉小学校児童や地域の人々が多数参加して点灯式が行われ、参加者たちは、温かく光るツリーをバックに記念撮影を楽しんでいた。

3 特色ある教育事業

⑴「おもてなし膳」を作ろう

地区内に住む60～80才の女性グループ「恋華会」(れんげかい・12名)が、月1回のペースで「おもてなし膳」と名付けた料理作りに取り組んでいる。

かわり巻き寿司、採れたて野菜の夏御膳、和食膳、ギョーザ＆中華風春雨サラダ、おせちなど、メンバーが持ち寄った材料を使ってアイデアを出し合いながら数多くのメニューに挑戦してきた。今後は、自分たちで味わうだけでなく、レシピを蓄積して地区の行事などでも活用していきたいと考えている。

⑵ みんなで歩こう！ 「ふるさとウォーク」

地区民の健康増進と地区巡りを兼ねて、平成27年度から年1回、年ごとにコースを変えて実施している。

平成30年9月16日に、工事開始から7年の月日を経て新しい布施田橋が開通したことから、今年度のふるさとウォークは「布施田橋をたのしもう」と名付けて、新旧の布施田橋を歩いて渡るイベントを企画した。

秋晴れに恵まれた9月23日、35名の参加者は、メッセージが書かれた風船を手に、まず新しい橋を渡り、続いて古い橋へ。車で何度も通った橋を懐かしむとともに、60年間お世話になった橋への感謝の思いを込めて風船を飛ばした。そして、古い橋の路面に感謝の気持ちを書き込んだ。

4 豊かな自然を守ろう！ ～ コウノトリの飛来 ～

平成30年6月、木下町の田んぼに２羽のコウノトリが22日間留まっていた。これは、5月に越前市で抱卵したペア(残念ながら孵化には至らず)だということが足輪の調査で分かった。平成21年度に初めて飛来を確認して以来、地区内の田んぼには毎年のようにコウノトリが飛来し、長期間留まることも増えている。

地区住民は鶉の自然のすばらしさを確信するとともに、今後も環境保護に努め、より住みやすく内外に誇れる里にしていきたいと考えている。

5 終わりに

鶉地区の歴史は古く、名所旧跡が多く残っている。地区住民と共にそれを掘り起こしながら新しい宝も発見・創造し、さらに魅力ある里づくりに取り組んでいきたい。子どもから高齢者まですべての人が「鶉を誇りに思う」そんな地区を目指している。

公民館を拠点に、様々な行事に取り組まれている地区の皆さんの姿から、郷土の偉人・杉田定一への感謝の気持ちや、その功績を後世に伝えようという熱い思いが感じられます。

今後も伝統が受け継がれ、豊かな自然の中で鶉地区がますます発展されますことをお祈りいたします。

【資料】　福井学　はばたきのステージ　その１

福井市では、歴史・自然・文化・産業・景観・生活などの事象を楽しく学ぶことにより、郷土の個性や魅力を見つめ直し、愛着心を育む中で、一人一人が誇りと自信をもって生活していこうという取組を「福井学」と称している。

中央公民館は、その「福井学」の学習センター的な役割を担っており、平成 19 年度から「福井学基礎講座」として毎年約 9 回の講座を開催してきた。その中で、これまで各地区の特色を生かした多くの実践事例報告を学習プログラムに取り入れ、その学習・研究成果を地域づくりに活用できるようにした。ここでは、平成 22 年度からの「はばたきのステージ」における講座の中から、地域の特色ある実践事例を以下に紹介する。

〈平成 22 年度〉

11 月 27 日　〇朝倉街道について（上文殊地区）　東大味町さくら会
　　〇花山行事について（東郷地区）　花山行事保存会

２地区の行事ともに、地区の子どもの数の減少により存続の危機にあったが、地域住民の協力のもと続けられている。地区民にとっては、地域を見直すともに地域づくりへの参加の機会が得られている。

今後も地域で知恵を出し合って多くの方々の協力を得ながら、魅力ある行事として継続していくことを願っている。

〈平成 23 年度〉

8 月 6 日　故郷の産物をめぐって

〇木田ちそ（木田地区）	木田ちそ出荷組合	組合長	加藤　秀次　氏
〇へしこ（越廼地区）	越廼公民館	主事	杉田久美子　氏
〇しんぼなす（啓蒙地区）	シニア野菜ソムリエ		竹下　　清　氏

各地域で取り組まれている産物の紹介があり、伝統野菜を育て続けることの大変さや後継者不足が課題として挙がった。先人たちが作り上げ守り続けた野菜を後世に残すために幅広く活動する中で、昔ながらの料理と違う方法をいろいろと工夫し商品として出しながら、伝統野菜を守り続けていただきたい。

10 月 1 日　ふるさとの山をめぐって

〇槙山の取組（東郷地区）	槙山を育てる会	会長	帰山　　悟　氏
〇下市山の取組（東安居地区）	菜の花公夢典	事務局長	川崎　栄祠　氏

それぞれ歴史のある城址を中心としたまちづくり活動の報告であった。市民の憩いの場として定着するよう、地区の有志の協力の下、遊歩道や展望所の整備を行った。その結果、誰もが気軽に散策を楽しみ、憩いの場として定着するようになった。

今後も広報活動や整備の維持管理を継続し、多くの方がそれぞれの山を親しめるようになることを期待している。

12 月 3 日　〇足羽川について（湊地区）　歴史探訪みなと塾　副塾長　田島　紀男　氏
　　〇荒川について（円山地区）　円山公民館　館長　宇佐美一朗　氏

川は古来から人間の生活には欠かせないものであり、地域で人々が川を身近なものと感じ、川を大切にするという意識を高めていくことが不可欠であるということが両者の共通認識である。

どちらも「川に歴史あり！」のごとく、様々な人物との関わりがあり、生活物資の輸送などにも利用されてきた。また、災害が繰り返されるたびに川の整備も行われてきている。

人々と川の共存という本来あるべき関係を保つため、住民がまず立ち上がって行政や関係機関などと連携し、今後も川の保全と整備活動が継続することを願っている。

〈平成 24 年度〉

7 月 14 日　守り育てる地域の偉人

○橘曙覧 生誕 200 年祭（湊地区）　歴史探訪みなと塾　副塾長　田島　紀男　氏
○春嶽公と左内先生の春山（春山地区）　春山公民館　館長　柳澤　全之　氏
○地域の偉人（旭地区）　旭公民館　館長　藤井　一夫　氏

３地区とも学校連携等で子供たちに先人の業績を伝え、地域を守り育てる実践活動が行われている。紹介された偉人の中には大変メジャーな人物から初めて聞く人物までいろいろといたが、県の偉人でもあるため、他の地域とも連携した今後の活動に期待したい。偉人を中心にすえたまちおこしは地区民で伝承していく必要があり、伝統芸能や伝統文化などの継承にもつながっていくことを願う。

12 月 8 日　○城址公園を夢見て（森田地区）　森田公民館　館長　吉村　公司　氏
○平家ゆかりの地との交流（国見地区）　国見町自治会　会長　辻岡　公男　氏

地域の歴史を多くの住民が学び、そこから地区の事業を展開する森田地区。歴史でつながった他県と地区住民が訪問し合う交流事業を行う国見地区。どちらも住民自身が作り上げていっている。先祖代々住んでいる住民、新しく転居してきた住民同士が協力し合い、今後も継続し、さらに発展していくような活動であってほしい。

〈平成 25 年度〉

8 月 10 日　守り伝える地域の歴史

○守り育てる地域の歴史（清明地区）　清明公民館　館長　坂上　清　氏
○「日新かるた」製作とその拡大活用（日新地区）　日新地区いきいきライフセミナー　前川　栄寛　氏

２地区とも「地区を愛し、地区に伝わる宝を次世代に伝え、守りたい」との熱い思いで活動を行っている。地区の歴史を継続的に発信していこうと、地域・学校など多くの方の協力のもとに事業が進められている。地域の PR 活動のために地元民が地元について調べまとめ伝えるといった、先を見据えた活動は他地区にもたいへん参考になったものと思われる。

8 月 24 日　福井の豊かな食文化の魅力

○生き生き母ちゃんのまちおこし（美山地区）　米工房ほ・た・る代表　杉田久美子　氏
○トマト専門部会の取組（東安居地区）　安本　進一　氏

地元産食材を活かして作られている特産物の誕生に至る経緯、生産者としての工夫や苦労、地域との連携・協力、今後の課題などについての実践発表が行われた。地域の生きがいづくりを実践し、地元に貢献している。地域の魅力を地域の方が担い手となり広めていく活動が他の地区にも広がってほしい。

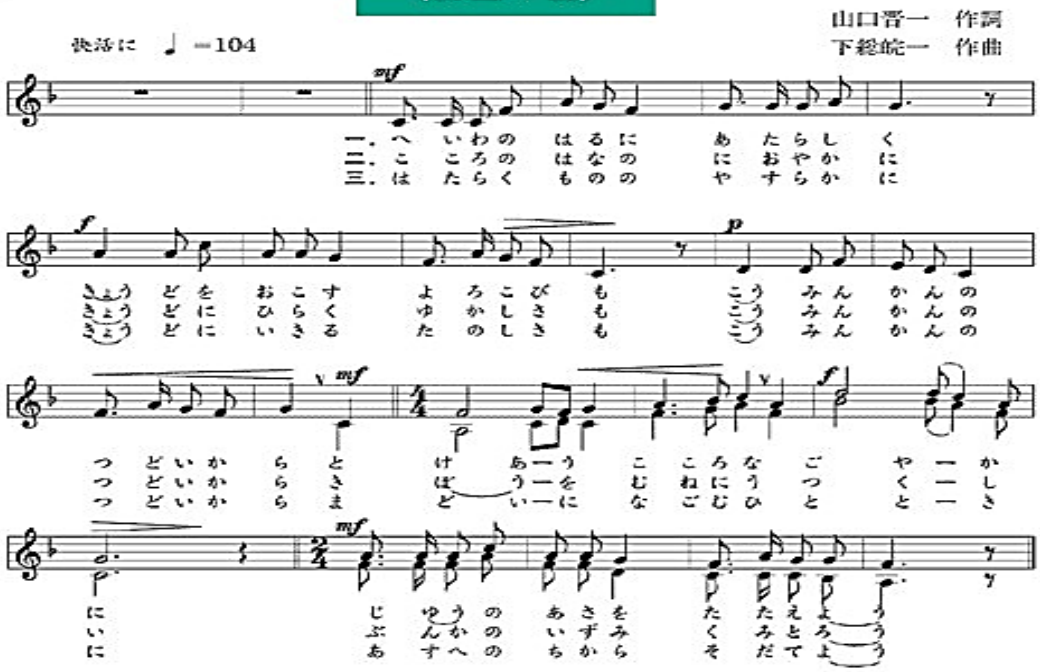
12 月 14 日　○宝永れきしカルタの取組（宝永地区）　宝永れきしカルタ作成委員会　委員長　増永　秀則　氏
○「地域をつなごう狼煙の道」～古里を狼煙でつなごう～（清水西地区）
清水西公民館まなび部会　北島　忍　氏

子供たちも関わりながら取組を行っている両地区。地元に伝わる歴史・伝統文化などのカルタを作成しようと、地域住民からアイデアを募集し、住民で作成した宝永地区。地区の歴史や伝統文化を学ぶにつれて現地に出向き実証的な学びを行いたいという思いが高まり、他地区とともに調整会議を開催し「狼煙の道の実証に挑戦」を実施した清水西地区。今後は、地区の良さを見つめ直し、次世代にも続いていく事業として定着し、地区民に広がっていくことを期待したい。

福井市の花

あじさい

公民館の歌
（自由の朝）



公民館の歌（自由の朝）

山口　晋一　作詞
下総　皖一　作曲

一．平和の春に　あたらしく
郷土を興す　よろこびも
公民館の　つどいから
とけあう心　なごやかに
自由の朝を　たたえよう

二．心の花の　におやかに
郷土にひらく　ゆかしさも
公民館の　つどいから
希望を胸に　美しい
文化の泉　くみとろう

三．働くものの　安らかに
郷土に生きる　たのしさも
公民館の　つどいから
まどいになごむ　ひとときに
明日への力　そだてよう

公民館の歌　自由の朝　について

昭和21年（1946年）7月、文部次官通牒により「公民館の設置」が奨励され、これを受けて9月には、「公民館設置促進中央連盟」が官民の協力で結成されました。この連盟と毎日新聞社が、文部省後援により実施したのが、公民館活動の理念を示す「公民館の歌」の歌詞の全国募集です。全国からの1,017件の応募から作家の川端康成、文部省（当時）、日本放送協会、毎日新聞社、日本レコード協会などの代表による審査団によって選ばれたのが、この歌詞です。

〈第１３号 編集委員〉

中央公民館運営審議委員	中嶋貴美江・鋸屋恵美子
生涯学習室	三原　嘉允
社会教育指導員	嶋田　直美・田中　政広
	河合　恭江
中央公民館	平馬　吉隆・前田誠一郎
	塩﨑めぐみ・半田　実紀

福井市の公民館

〈監修〉福井市生涯学習室

〈発行〉福井市中央公民館　平成３１年２月

〒910－0858

福井市手寄１丁目４－１

TEL　０７７６－２０－５４５９

FAX　０７７６－２０－１５３８

E-mail ： cyuou-k@mx1.fctv.ne.jp

http://www1.fctv.ne.jp./~cyuou-k